

## 平成18年度秋の<山歩きの会>報告

### 紅葉の小鹿溪谷散策

山歩きの会では昨年秋三徳山投入堂へ、そして今年3月和気アルプスへと歳の割にはハードな計画が続いた反省から、今年の秋はドライブ気分で紅葉を楽しもうと下記の計画で参加者を募ったところ10名の応募があり実施した。

実施日と予定

11月10日(金) 小鹿溪谷散策～三朝温泉～蒜山山荘(泊)

11日(土) 蒜山山荘出発～鏡ヶ成～鍵掛峠～大山寺駐車場～大山寺散策  
～湯原温泉(入浴)～MC駐車場(解散)

参加者

亀田 田渕 薬師寺 妹尾 井上 立花 横井 鍋島 竹内 吉岡 以上10名

10日集合時刻の9時15分前には殆どの顔が揃う。開口一番出るのが天気の話、昨夜の予報では山陰は雨、しかし今朝の予報は少し良い方向に変わったらしいと最新情報に全員一安心。岡山の上空は晴れているが、日本海側は何時変わるか分からない。雨になる前に目的地の小鹿溪に急ぐ事にし、途中トイレ休憩と紅葉見物を兼ねて奥津溪で小休憩を取ることを打ち合わせ、3台の車に分乗する。

奥津溪では大勢の紅葉見物客で混雑しており、特に大釣温泉周辺は紅葉の名所、辺り一面が真赤に染まり、混雑も一段とひどい。道端には1台の車が止まるスペースもなく、前後の車の流れるままに前へ進む、とうとう車中からの紅葉見物となる。



国道に戻って人形トンネルを越える。心配していた空模様もうす雲はあるものの雨の気配はなさそう。道路も快適に走れ三朝温泉を通過して小鹿溪の駐車場に着いたのは12時20分。身支度を整えて溪谷に下りて、好みの石の上に陣取り弁当を広げる。

今回は昨年が続いて2度目の小鹿溪。去年は紅葉には時期が早過ぎて見る事ができなかった、今年こそ溪谷に映える紅葉をと期待して、食事もそこそこに切り上げ上流目指して歩を進める。

小鹿溪は両側の谷が深く太陽光が届きにくいいためか赤色が少なく黄色の紅葉が多い。溪流を埋め尽くす大小の石、流れ落ちる滝と紅葉がマッチして実に美しい。途中記念撮影などして約1時間半の溪流散策を終える。

その後一旦駐車場に引き返し、小鹿溪の上流にある中津集落へ向かう。この集落は平家にゆかりの人々が代代暮らしてきた所。集落の入り口には平家一門の墓と刻まれた石碑が見られ、安徳陵の立



て札もある。冬は積雪が2mにもなるので納屋のトタン屋根に補強をしていると言う老人の話。今では過疎化が進み住宅も荒れ放題、廃墟に混じって今も住み続けている老人は5, 6世帯、殆どが一人暮らしという。

夕方5時にはRSK蒜山山荘に到着、夜は恒例になったジンギスカン鍋で賑やかな夜食。全員が良く呑みよく食べよく話した。

11日は大山の紅葉見物の予定が、夜中から雨になり予定を変更して、苫田ダム湖畔の赤壁邸で昼飯を食べて近くの温泉に入って帰ることにして、蒜山を後にした。

そして県境の人形峠まで帰った時、急遽動燃の展示館を見物して帰ることになり、国道179号から旧人形峠へ。

ところが頂上まで来ると突然ヘルメットを被った大勢の人と車。ガードマンが大きな赤旗を振って我々の車を止め、行き先を尋ねる。見学にきた事を告げると無線で一般の見学者である事をゲートのガードマンに通報して通行許可が出る。

異様な雰囲気は何事かと尋ねると「ウラン残土の撤去」と言う返事。坂道を頂上まで来て左側の山の斜面を見る。合羽姿にヘルメットの作業員、クレーン車で大きな袋を吊り上げている。大勢の報道陣やテレビカメラ、関係者とヘルメットの色もさまざま。思いもかけない異様な光景の中、展示館見学を終えて、5時過ぎ全員無事MC駐車場に帰り着き解散した。

帰宅後我々は車3台を連ねてやって来た抗議団と間違えられての検問で有ったのかと気が付く。

翌朝の山陽新聞朝刊には「鳥取のウラン残土撤去完了、放置発覚から18年」の文字が大きく載っていた。



(文 吉岡)

